

研究業績

査読付き原著論文

1. 渡邊敦子、新井清美、岡坂昌子：大学生におけるアルコール問題と精神健康、生きがい感との関連、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第53巻5号、p201-211、2018.
2. 新井清美、渡邊敦子、岡坂昌子：大学生のアディクションの実態と問題化のリスク要因の検討—飲酒とギャンブルに関する質問紙調査から、日本アルコール関連問題学会雑誌、第19巻2号、p77-84、2018.
3. 岡坂昌子、宮本武晃、岩井喜代仁、福島シヨーン、平山昌一：民間の薬物依存症リハビリテーション施設における刑事処分歴のある薬物症者の実態と再犯防止に関する一考察、浦和大学・浦和大学短期大学部「浦和論叢」、第50号、p31-42、2014.
4. 森田展彰、岡坂昌子、谷部陽子、近藤あゆみ、高橋郁絵、岩井喜代仁、栗坪千秋、オーバーヘイム・ポール、福島シヨーン、鈴木文一、小松崎未知：薬物問題を持つ人の家族に対する心理教育プログラムの研究—長期的な再発防止・回復にむけた家族のスキルトレーニング、日本アルコール関連問題学会誌、第13巻、p149-158、2011.
5. Yoshiko Okasaka、Nobuaki Morita、Yoji Nakatani and Kunihiko Fujisawa：Correlation between addictive behaviors and mental health in university students. Psychiatry and Clinical Neurosciences、62 (1)、p84-92、2008.
6. 森田展彰、末次幸子、嶋根卓也、岡坂昌子、清重知子、飯塚聡、岩井喜代仁：日本の薬物依存症者に対するマニュアル化した認知行動療法プログラム開発とその有効性の検討、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第42巻5号、p487-506、2007.
7. 森田展彰、嶋根卓也、末次幸子、岡坂昌子：日本において薬物依存症者の自助施設はどのように機能しているか—全国ダルク調査から—、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第41巻4号、p343-357、2006.
8. 嶋根卓也、森田展彰、末次幸子、岡坂昌子：薬物依存者による自助グループのニーズは満たされているか—全国ダルク調査から—、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第41巻2号、p100-107、2006.
9. 岡坂昌子、森田展彰、中谷陽二：薬物依存者の自殺企図に関する研究—自殺企図の実態とリスクファクターの検討—、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第41巻1号、p39-58、2006.

総説・特集等

1. 森田展彰、岡坂昌子：薬物使用障害者の自殺、精神科治療学、第25巻、p213-221、2010.
2. 森田展彰、根本透、末次幸子、岡坂昌子：サンフランシスコにおける薬物依存症者に対する治療共同体の研究（1）—プログラムの概要および日本の医療・自助グループとの相違について—、日本アルコール・薬物医学会雑誌、第38巻5号、p440-453、2003.
3. 岡坂昌子、森田展彰：わが国における薬物乱用の若年層への浸透—その背景と対応を中心に—、思春期学、第20巻1号、p142-149、2002.

著書（大学授業教科書）

1. 安齋順子、小島秀吾、小宮信夫、大江由香、管原歩、岡坂昌子、菊池春樹、梅野充、西村香、井口藤子、荒川歩、徳山美知代：わかりやすい犯罪心理学（第6講の「犯罪と家族」を担当）、p59-71、文化書房博文社、2010.
2. 渡邊敦子、安齋順子、佐藤純、岡坂昌子、梅野充、安高真弓、佐藤朝子、山田義則、有本慶子：対人関係とコミュニケーション—依存症・触法精神障害者への支援から考える（第4章「共依存」を担当）、p40-45、北樹出版、2015.

厚生科研費（薬物依存研究部）

1. 松本俊彦、森田展彰、猪野亜郎、小沼杏坪、奥平謙一、成瀬暢也、芦沢健、松下幸生、武藤岳夫、長徹二、阿瀬川孝治、長谷川直美、尾崎茂、内門大丈、武川吉和、小林桜児、今村扶美、赤澤正人、上岡陽江、幸田実、山田幸子、渡邊敦子、岡坂昌子、谷

- 部陽子、宮城純子：薬物依存者・アルコール依存者の実態解明と自殺予防に関する研究、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究（研究代表者：伊藤弘人）」総括・分担研究報告書、p121—134、2012.
2. 森田展彰、上岡陽江、幸田実、谷部陽子、山田幸子、渡邊敦子、岡坂昌子：民間援助団体における薬物乱用者の自殺・自傷行動に対する援助に関する研究、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究」、総括・分担研究報告書、p135—153、2012.
 3. 松本俊彦、森田展彰、猪野亜郎、小沼杏坪、奥平謙一、成瀬暢也、芦沢健、松下幸生、武藤岳夫、長徹二、阿瀬川孝治、長谷川直美、尾崎茂、内門大丈、武川吉和、小林桜児、今村扶美、赤澤正人、上岡陽江、幸田実、山田幸子、渡邊敦子、岡坂昌子、谷部陽子、宮城純子：薬物依存者・アルコール依存者の実態解明と自殺予防に関する研究、平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金障害者対策総合研究事業（精神障害分野）「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究（研究代表者：伊藤弘人）」平成 21—23 年度総合研究報告書、p47—60、2012.
 4. 松本俊彦、森田展彰、猪野亜郎、小沼杏坪、奥平謙一、成瀬暢也、芦沢健、松下幸生、武藤岳夫、長徹二、阿瀬川孝治、長谷川直美、尾崎茂、内門大丈、武川吉和、小林桜児、今村扶美、赤澤正人、上岡陽江、幸田実、山田幸子、渡邊敦子、岡坂昌子、谷部陽子、宮城純子：薬物依存者・アルコール依存者の自殺の実態解明と自殺予防に関する研究、厚生労働科学研究補助金「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究」平成 22 年度総括・分担研究報告書、p41—72、2011.
 5. 松本俊彦、森田展彰、猪野亜郎、小沼杏坪、奥平謙一、成瀬暢也、芦沢健、松下幸生、武藤岳夫、長徹二、阿瀬川孝治、長谷川直美、尾崎茂、内門大穰、武川吉和、小林桜児、今村扶美、赤澤正人、上岡陽江、幸田実、山田幸子、渡邊敦子、岡坂昌子、谷部陽子、宮城純子：薬物依存者・アルコール依存者の自殺の実態解明と自殺予防に関する研究、平成 21 年度厚生労働科学研究補助金「自殺のハイリスク者の実態解明及び自殺予防に関する研究」総括・分担研究報告書、p41—55、2010.
 6. 森田展彰、中谷陽二、岩井喜代仁、岡坂昌子、山田幸子：薬物依存者に対する心理プログラムの有効性に関する多施設研究、平成 18—20 年厚生労働科学研究費補助金研究成果報告書、2009.
 7. 森田展彰、梅野充、岡坂昌子、末次幸子、嶋根卓也、妹尾栄一：薬物依存に対する心理療法・認知行動療法の開発、平成 16—18 年厚生労働科学研究事業「薬物依存症、アルコール依存症、中毒性精神病治療の開発・有効性評価・標準化に関する研究」総括研究報告書、p89—120、2007.
 8. 森田展彰、岡坂昌子、末次幸子：自助グループの実態に関する研究、平成 15 年度厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合事業「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」分担研究報告書、p121—138、2004.
 9. 森田展彰、佐藤親次、妹尾栄一、末次幸子、岡坂昌子、栗坪千秋：薬物乱用少年の情動障害に対する援助・治療の有効性—心理生物学的要因の検討—、平成 12—14 年度文部省科学研究費補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書 p1—50、2003.
 10. 森田展彰、末次幸子、岡坂昌子：自助グループの実態に関する研究、平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金医薬安全総合事業「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」p173—187、2003.
 11. 中谷陽二、森田展彰、岡坂昌子、林志光：薬物依存者の保護観察処遇、厚生科学研究費補助金医薬安全総合研究事業 13 年度研究報告書「薬物依存・中毒者の予防、医療およびアフターケアのモデル化に関する研究」p49—67、2003.
 12. 中谷陽二、森田展彰、岡坂昌子、石下奈緒子、梅野充：薬物依存者の保護観察に関するアンケート調査、厚生科学研究費補助金医薬安全総合研究事業 13 年度研究報告書「薬物依存・中毒者の予防、医療およびアフターケアのモデル化に関する研究」p41—48、2002.

学会発表等

1. 【自主シンポジウム】安齋順子、西村香、梅野充、池田朋広、岡坂昌子、有園博子：薬物依存治療の過去・現在・未来を語る—精神科医、精神保健福祉士、臨床心理士それぞれの立場から—、日本心理臨床学会第 28 回秋季大会（2009.9）
（抄録掲載：日本心理臨床学会第 28 回秋季大会発表論文集、p592、2009）

2. 【シンポジスト】岡坂昌子、森田展彰、中谷陽二：薬物依存症の病態と治療に関する新たな展開「薬物依存者の自殺企図に関する研究－リスクファクターの検討を中心に－」、第40回日本アルコール・薬物医学会総会（2005.9）
（抄録掲載：日本アルコール・薬物医学会雑誌、第40巻4号、p346－347、2005）
（一般報告）
3. 新井清美、渡邊敦子、岡坂昌子：大学生のアディクション問題の実態－アルコールとギャンブルの問題に関する検討－、第38回日本アルコール関連問題学会秋田大会（2016.9）
（抄録掲載：日本アルコール関連問題学会大会プログラム抄録集、p112、2016）
4. 森田展彰、岡坂昌子、谷部陽子、近藤あゆみ、高橋郁絵、岩井喜代仁、栗坪千秋、オーバーヘイム・ポール、福島ショーン、鈴木文一、小松崎未知：薬物問題を持つ人の家族に対する心理教育プログラムの作成、第32回日本アルコール関連問題学会大会（2010.7）
（抄録掲載：日本アルコール関連問題学会大会プログラム抄録集、p80、2010）
5. 森田展彰、村岡香奈枝、梅野充、岡坂昌子、谷部陽子、妹尾栄一：トラウマ症状を伴う物質乱用者に対する統合的な認知行動療法プログラムの開発、第43回日本アルコール・薬物医学会総会（2008.9）
（抄録掲載：日本アルコール・薬物医学会雑誌、第43巻4号、p600－601、2008）
6. 森田展彰、末次幸子、嶋根卓也、岡坂昌子、清重知子、岩井喜代仁：日本の薬物依存者に対するマニュアル化した再発予防プログラムの開発とその有効性の検討、第41回日本アルコール・薬物医学会総会（2006.7）
（抄録掲載：日本アルコール薬物医学会雑誌、第41巻3号、p240－241、2006）
7. 岡坂昌子、森田展彰、中谷陽二、梅野充：薬物依存者の養育環境と自殺企図、第1回家族と子どもセラピスト学会（2006.5）
8. 森田展彰、末次幸子、岡坂昌子、岩井喜代仁、栗坪千秋：茨城ダルクにおけるアウトリーチ型の心理教育プログラム導入の試み、第37回日本アルコール・薬物医学会総会（2002.9）
（抄録掲載：日本アルコール・薬物医学会雑誌、第37巻4号、p442－443、2002）
9. 末次幸子、岡坂昌子、森田展彰、中谷陽二、岩井喜代仁：慢性薬物乱用者における神経心理学的障害とスピリチュアリティ、第23回茨城医学会精神科分科会&第50回茨城精神医学集団会（2001.11）
（抄録掲載：茨城県臨床医学雑誌、第38巻、p40、2002）
10. 森田展彰、末次幸子、岡坂昌子、和田清、根本透：米国における薬物依存症のTherapeutic Communityの研究－日本の医療や自助グループとの比較－、第36回日本アルコール・薬物医学会総会（2001.9）
（抄録掲載：日本アルコール・薬物医学会雑誌、第36巻4号、p350－351、2001）
10. 岡坂昌子、野村良和：大学生の嗜癖行動に関する研究、第16回日本保健医療行動科学学会大会（2001.6）
（抄録掲載：第16回日本保健医療行動科学大会プログラム抄録集、p31、2001）
11. 岡坂昌子、柴田宣之、後藤和史、森田展彰、藤沢邦彦：大学生の精神健康における調査研究－共依存と嗜癖行動の関連を中心として－、第22回茨城医学会精神科分科会&第49回茨城精神医学集団会（2000.11）
（抄録掲載：茨城県臨床医学雑誌、第37巻、p35－36、2001）
12. 岡坂昌子、藤沢邦彦：高齢者の健康に対する意識の実態－相田市上町地区の場合－、日本体育学会第50回記念大会／体育・スポーツ関連学会連合大会（1999.10）
（抄録掲載：日本体育学会大会号、第50巻、p607、1999）